# まちと暮らすHANARE

HANARE

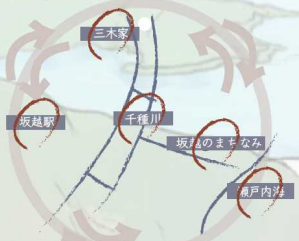
兵庫県赤穂市浜市、千種川の下流に位置し古くから
水害の多い田園地域に佇む
明治時代より今もなお佇む三木家は
母屋と２つの離れに４つの蔵と広大な庭に
歴史を重ねた追憶が生きる
千種川を挟んだ先には坂越の街並みが残り今もなお
後世に歴史を伝えている
そこでこの地をまちの離れ坂越の離れと位置付け
歴史を後世に伝えるとともに新たなる歴史をつくる

# Ⅰ. まちと暮らす

## Ⅰ-1. 離れとしての三木家

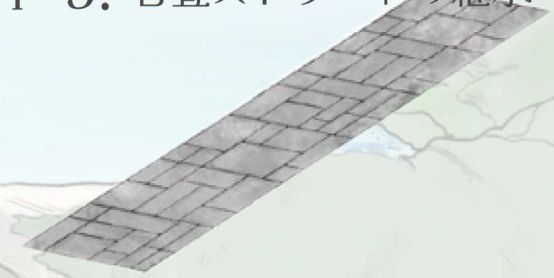
江戸時代から続く港町・坂越から千種川を挟んだ浜市に位置する三木家。現在でも坂越の街並みは現存しており日本遺産に認定され、兵庫県南西部随一の観光地となっている。その坂越と三木家の立地を活かし、坂越の離れのような存在を掲げ三木家の再生を目指す。さらには赤穂や姫路の離れのような存在となり坂越の活性化の起爆剤となることに期待を込める。

## Ⅰ-2. 坂越ぐるっと計画




港町坂越に訪れた人は石畳の歴史地区を散策し他の観光地に移動するのが現状である。また観光客は車もしくは坂越駅よりバスで歴史地区に行く人がほとんどである。そこで三木家を起点とし坂越ぐるっと計画による街歩きの促進を促すとともに坂越全体の観光拠点をふやす。

## Ⅰ-3. 石畳ストリートの継承



坂越地区の街並みの継承として敷地内には石畳を敷く。母屋部分では通り庭のような役割を、カフェの中にも導線として、さらにお花畑にも道を伸ばす。これらの石畳を直線でなく敷地全体に円形に導線をつくることで回遊性をもたらす。

## Ⅰ-4. 育てるライブラリー

本を通してのコミュニティづくりをめざした、まちライブラリーを敷地内に設置する。陶芸に関する本をはじめ、地域から寄贈していただいた本を中心に特色のあるライブラリーをつくる。カフェでコーヒーを片手に本を読んだり、本を借りまた本を返しに戻ってきたりと気軽にみんなが集まることのできる地域の拠り所をめざす。

# Ⅱ. 歴史とともに

## Ⅱ-1. 歴史の継承＋α

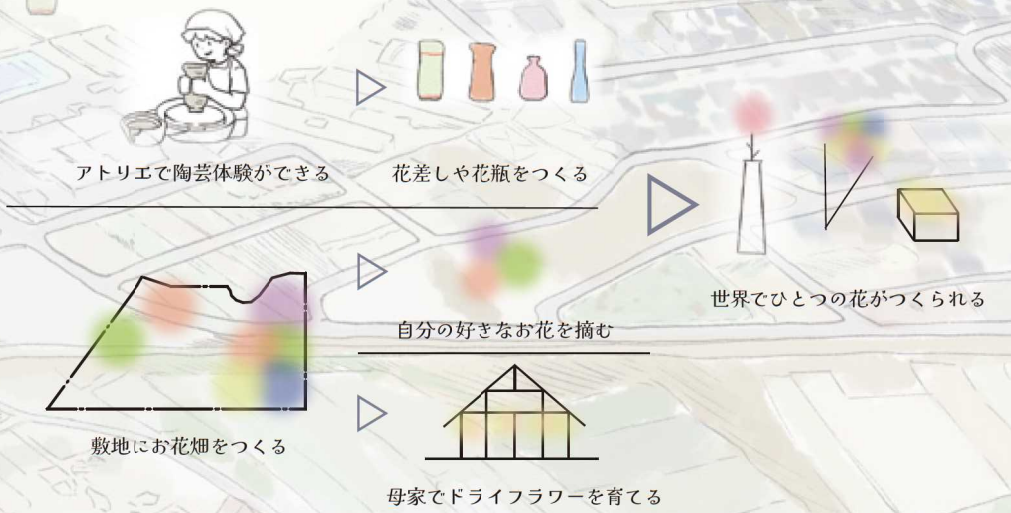
三木家は昔地域の集会所のような役割を担い地域の拠り所となっていた歴史がある。地域が盛り立てられ拠り所となる三木家は坂越、さらには赤穂市の拠り所となる。

## Ⅱ-2. 表を裏に

現在の入り口から先の道路側には立派な背戸口がある。新たなる三木家は裏を表に変え敷地全体の回遊性を促す。さらには背戸口から入った際に両側を蔵に囲まれている環境を活かし、非日常の感覚を誘発させる。狭いところから入ることによりドキドキワクワクする感覚を持たせ開放的な母屋に来ることでリラックス効果を生む。

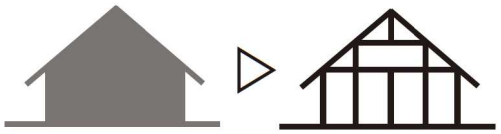
# Ⅲ. まちとつながるお花畑

## HANAれプロジェクト



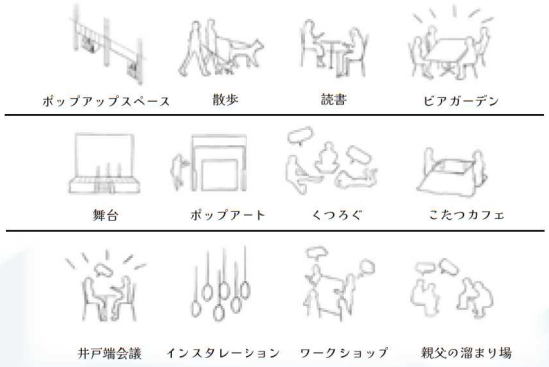
# Ⅳ. くみあわせの減築

## Ⅳ-1. 減築の可能性



母屋の軸組と屋根だけを残しそのほかは減築する計画とする。三木家の骨髄である軸組の躯体を見せ屋外と連続させた新しい空間をつくることでまちとつながりを持たせた拠り所となる。

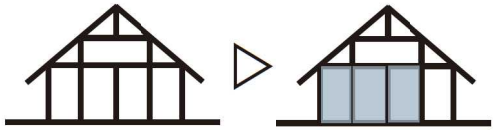
## Ⅳ-2. 屋根下アクティビティ




## Ⅳ-3. 新たなるテクスチャ

剥き出しの軸組にはコンクリートを打ち込み耐震補強を行うと同時に、新しい生活を想起させるテクスチャとして期待を込める。木造の躯体にコンクリート、さらにそこに通る石畳。歴史を継承しつつ新たなる三木家をつくる存在となる。

## Ⅳ-4. 増築の可能性



躯体を残しているため使用用途によって増築も可能な計画である。ガラスや壁や天井を作ることにより新たな室ができあがる。リノベーションの完成はみえない可能性のある建築である。

# Ⅴ. 配置プラン